

【公益社団法人日本技術士会東北本部山形県支部】

令和7年度 支部活動報告

1. はじめに

令和7年度の支部活動として「技術士受験体験研修会」「山形県支部年次大会・研修会」「現場研修会」「技術教養講座」「出前授業」「技術者倫理ワークショップ」「技術士インタビュー語るBe・語り部」を行いました。以下に報告します。

2. 令和7年度技術士受験体験研修会

開催日：2025年6月12日（木）

場 所：山形県産業創造支援センター

参加者：34名

研修会では、技術委員の菅勝美氏より、技術士試験制度の概要、技術士としての役割についてご講演いただいた。加えて、技術士の先輩方からのビデオメッセージも紹介され、受験の意義や実務との関わりについて理解を深めることができた。

また、高田地研の大場浩史氏からは、実際の受験体験を踏まえた講話があり、資格取得までの経緯、試験時の留意点、効果的な学習方法など、実践的かつ具体的なアドバイスをいただいた。

研修の後半では、4つの班に分かれてワークショップ形式で例題に取り組み、各班内で活発な議論が行われた。多様な視点や考え方を共有し、受験に向けた知見を広げる非常に有意義な機会となった。



写真2-1 ワークショップ
(技術委員会 池田記)

3. 令和7年度 山形県支部年次大会・研修会

開催日：2025年7月4日（金）

場 所：山形グランドホテル

参加者：67名（来賓・講師を除く）

3-1 年次大会

山形県支部年次大会開催にあたっての須藤支部長の挨拶後、御来賓である山形県産業労働部産業技術イノベーション課 産業科学技術政策主幹飛塚幸喜様、公益社団法人日本技術士会東北本部 山本真之様より御祝辞を頂戴致しました。



写真3-1 須藤支部長による挨拶



写真3-2 飛塚産業科学技術政策主幹による挨拶



写真3-3山本副本部長による挨拶

また、今年度は役員改選の年であり年次大会を経て支部長、幹事の交代による新体制への移行も行われました。新しく支部長に就任した湯澤支部長からは、退任された幹事の方へのねぎらいの言葉がありました。退任された役員は以下の3名です。いずれも山形県技術士会の時代から長い期間にわたって支部の発展に貢献されました。大変お疲れ様でした。

- ・須藤勇一氏 支部長
- ・河内 功 技術副委員長
- ・小山田孝一 事務局参与



写真3-4湯澤新支部長による挨拶

3-2. 研修会

【講演1：ど田舎でど中小企業のSNS】

講師：株式会社新庄砕石工業所

取締役管理部長 柿崎 昶氏

講演概要

昨今の時代の流れや建設業界の変化を背景に、その状況に柔軟に対応すべく、1つのツールとしてSNSを活用があげられます。

その活用について柿崎講師より、ユーモアを交えてご講演いただきました。実際の取り組み事例を通じて、中小企業でも実践できる工夫や発信方法が紹介され、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

また、建設DXに関する話題も交えながら、今後の業界の展望についても語られました。



写真3-5 柿崎昶氏による講演

講演2：地域貢献と水力発電開発】

講師：福田真三技術士事務所

所長 福田真三氏

講演概要

福田講師をお招きし、水力発電の歴史と技術についてご講演いただきました。

明治時代から始まった日本の水力発電は、環境に優しい再生可能エネルギーとして注目されてきましたが、ダム建設費や立地の制約、自然環境への影響などから、近年では火力・原子力発電へと移行が進んでいます。

講演では、福田講師が携わった海外や山形での水力発電プロジェクトについて、技術的な解説も交えてご紹介いただき、実務に基づいた貴重なお話を伺うことができました。

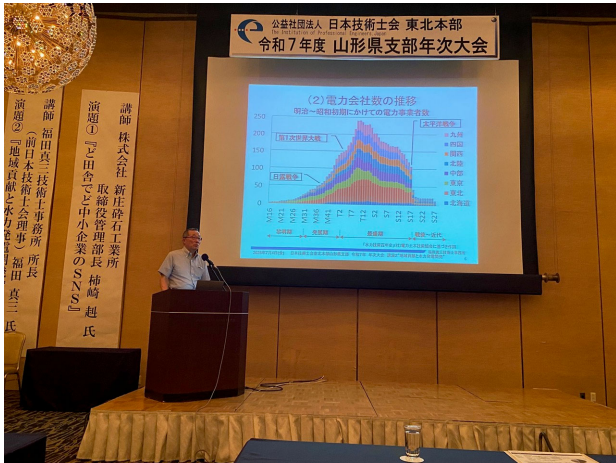


写真 3-6 福田真三氏による講演

3-3. 交流会

研修会に引き続き、交流会が行われました。新入会員として7名の方から挨拶をいただきました。



写真 3-7 新入会員の挨拶



写真 3-8 年次大会記念撮影

(広報委員会 伊藤・技術委員会 池田記)

4. 令和7年度 山形県支部現場研修会

日時：2025年10月16日（木）～
2025年10月17日（金）

内容：1. ナノテラス 見学
2. 東日本大震災・原子力災害伝承館 見学
3. 日産いわき工場 見学
4. 福島ロボットテストフィールド 見学

参加者：12名

4-1. ナノテラス 見学

ナノテラス（3GeV 高輝度放射光施設）は、エネルギーの高い電子を小さく集めることで太陽光の10億倍の明るい軟X線を発生させ、ナノの世界を観察できる施設で、エネルギーや材料、デバイス、食品や資源などの分野で研究開発に利用されています。この施設では電磁石の高密度配列等の最新技術を用いた国内初の第4世代放射光源を使用しており、設備は電子を加速させる加速器、電子が周回する蓄積リング、放射光を取り出す挿入光源、放射光が通るビームラインと試料に照射するエンドステーションから構成されています。

施設では概要について説明を受け、実際に電子をほぼ光速まで加速させる線形加速器や放射光を試料にあてるビームライン～エンドステーション設備を見学しました。



写真 4-1 電子を加速させる線形加速器

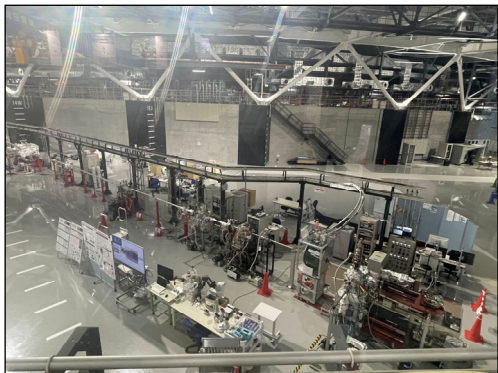


写真 4-2 試料に放射光を当てるエンドステーション

4-2. 東日本大震災・原子力災害伝承館 見学

東日本大震災・原子力災害伝承館は、東日本大震災の地震・津波により大きな被害を受けるとともに東京電力第一原子力発電所事故により避難指示が出された福島県双葉郡に立地しています。館内では地震や原発事故・その後の復興過程が知ることができる資料の「展示見学」のほか、「フィールドワーク」や「語り部講話」を実施しており、福島県で起きた未曾有の複合災害の実態や復興の現状や課題を体感できます。

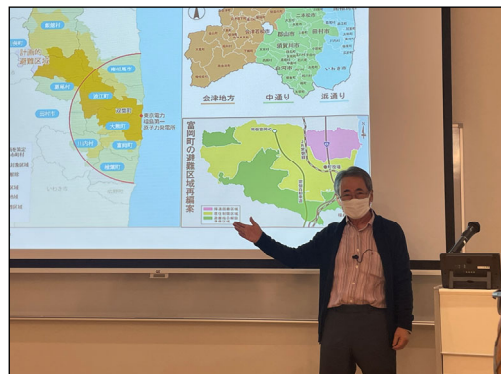


写真 4-3 語り部による研修

語り部による講話の中で地震や津波による被害より突然の原発災害の方が地元住民のその後の人生に大きな陰を落としたことを聞きました。そして、その絶望感に抗するためには人との繋がりが大切とのこと共助の重要性を改めて感じました。



写真 4-4 資料の展示室

4-3. いわき 日産工場 見学

いわき日産工場は、最新鋭の設備を導入したエンジンの一貫生産工場です。この工場が開発・生産されているのは精密かつ高効率のVQエンジンで、従来、自動化が困難とされた工程にロボットを積極的に導入したことで、資材受け入れから生産、出荷までを統合管理するCIMを導入し、高品質・高効率な生産を実現しています。

今回の研修会では製造工程における自動化や確実な品質を確保するため各工程でのガイド・チェックシステムの運用を見学しました。



写真4-5 工場のエントランス



写真4-6 歴代のエンジンの展示

この他にも工場内に散見される東日本大震災で発生した沈下などの痕跡も見学し、どんな状況でも前向きに行動して現状まで回復させた姿勢に感銘を受けました。

4-4. 福島ロボットテストフィールド 見学

福島ロボットテストフィールドは、福島県南相馬市に位置し、陸・海・空で使用するロボットの開発と実証を目的とした施設です。このフィールドは、東日本大震災後の復興を目指す「福島イノベーション・コースト構想」の一環として開設されました。



写真4-7 施設内での概要研修

施設は福島県浜通りの避難区域にあり、広さは約50ヘクタールとなっています。その中に無人航空機エリア、インフラ点検・災害対応エリア、水中・水上ロボットエリアが整備されており、実際の使用環境に近い条件で研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができます。



写真4-8 インフラ点検・災害対応エリア

残念ながら、研修会の際は実証試験などは行われていませんでしたが、実際の施設を間近で見学でき、有意義な現地研修会となりました。

最後に福島ロボットテストフィールドエントランスでの集合写真です。

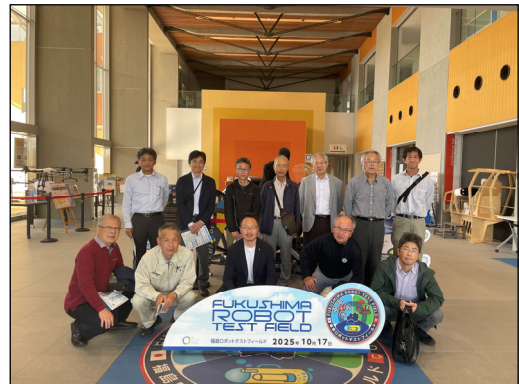


写真4-9 ロボットテストフィールドにて集合写真
現場研修会（技術委員会 大場 記）

5. 令和7年度 技術教養講座

5-1 講演要旨

「技術教養講座」は、山形県支部の前身である山形県技術士協会の時代から山形県、他協会の後援を得て、継続して実施している事業です。参加費は無料で、技術士会会員のみならず、どなたでも参加できる市民向け教養講座として毎年開催しています。

5-2 技術教養講座の開催概要

令和7年度（第31回）技術教養講座
日時：2025年12月12日（金）
場所：山形県高度技術研究開発センター
多目的ホール

参加者：73名（講師を除く）
（会員37名、一般36名）

講演内容

(1) 『ナスカ台地を歩く：最新技術でよみがえる地上絵の実態』

山形大学 人文社会科学部 人間文化
コース
教授 坂井 正人 氏

(2) 『サクラマスに教わる川づくり』

山形大学 農学部 食料生命環境学科
エコサイエンスコース担当
教授 渡邊 一哉 氏

5-3 ナスカ台地を歩く：最新技術でよみがえる地上絵の実態

「ナスカの地上絵」には巨大な線タイプと小型の面タイプ（レリーフタイプ）の2種類がある。山形大学ナスカ研究所はリモートセンシング技術（人工衛星、航空機、ドローン）とIBMの先進的なAI（人工知能技術）を活用したことで新たに303個の地上絵を発見した。



写真5-1 坂井講師の講演の様子

面タイプの具象的な地上絵が大量に発見されたことで、これらは線タイプの地上絵とは、様式・規模・分布において差異があることが判明した。

巨大な線タイプの地上絵は、主に野生動物が描かれ、神殿へと続くネットワークに沿って分布しているため、共同体レベルの儀礼活動に使用されたものと考えられる。これに対して小型の面タイプの地上絵は人や家畜などのモチーフが描かれており、曲がりくねった小道から見えるため、個人ないし小集団によって使用されていたと地上絵が描かれた目的についての講演をいただいた。

5-4 サクラマスに教わる川づくり

河川環境学において指標生物は重要であり、赤川水系梵字川支流早田川流域でサクラマスを対象として研究を行った成果について説明いただいた。



写真5-2 渡邊講師の講演の様子

早田川流域ではサクラマスの産卵床となる礫材は一定の粒度分布を示し、水深約30cmの場所に形成されている。また、実験の結果、これを視覚で選択していることも判明した。しかし、流域治水によるダム建設で土砂供給が減少するなどの影響でアーマコート化や露盤化といった川の底質に変化が生じ、産卵環境の喪失や渓流河川食物連鎖にも影響を及ぼす可能性が懸念される。このため、UAVやAI解析、実証調査で環境の見える化を図り、適切な評価と対策に基づく新しい環境保全の取り組みを行うことが今後は重要となる。

こうした研究を通して河川環境の保全、および治水偏重の土木構造物と生態系との共存の難しさについて講演をいただいた。

（技術委員 大場 記）

6. 倫理委員会 令和7年度活動実績

6-1 第1回技術者倫理ワークショップ(以下WS)

- ① 日時 2025年9月26日(金)
13:45~16:50
- ② 場所 山形テルサ 交流室A
- ③ 参加人数 22名(オンライン4名)
- ④ 内容

湯澤支部長挨拶のあと、消費者庁 三宅・倉本両講師から「公益通報者保護法の概要について」と題して、オンラインによる講演を拝聴した。

その後、WSのプログラムの説明、4班(内1班はオンライン)に分かれて、創作事例「公共工事の施工ミス—通報するか、黙認するか?」をもとに事例確認を行った後、事前に用意した問い(4問)について意見交換を実施。最後に、各班から成果発表を行い、情報共有を図った。



写真6-1 講演状況



写真6-2 WSの状況

6-2 第2回技術者倫理WS

- ① 日時 2026年2月27日(金)
13:30~16:30
- ② 場所 山形テルサ 研修室A
- ③ 参加人数 24名(オンライン6名)
- ④ 内容

湯澤支部長挨拶の後、大岩倫理副委員長より

「最近の不正事例」について紹介があった。

その後、WSのプログラムの説明を行い、5班(うち1班はオンライン)に分かれ、AI活用を題材とした架空事例(各班で一つ選択)をもとに事例確認を実施した。続いて、事前に用意した問い(4問)について意見交換を行い、最後に各班から成果発表を行って情報共有を図った。

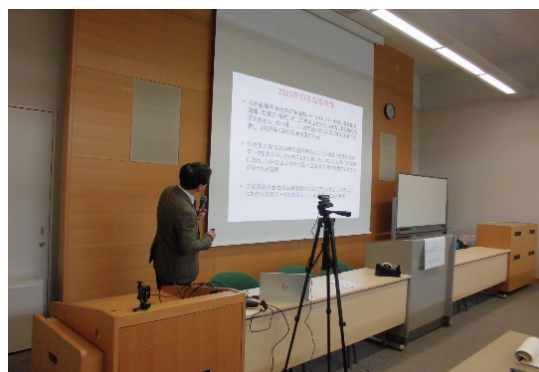


写真6-3 最近の不正事例



写真6-4 WSの状況

6-2 ニュースレターの発行(ホームページに掲載)

会員へ技術者倫理に関する話題提供を行う目的で、「山形技術者倫理ニュースレター」第8号、第9号を発行した。

- ① 第8号：2025年11月発行。
内容：第1回ワークショップ(2025年9月)の実施内容を掲載。
- ② 第9号：2026年3月発行。
(倫理委員会 安達 記)

7. 社会学習委員会 令和7年度活動実績

日本技術士会東北本部山形県支部社会学習委員会
2016年から始まった山形県支部主催の出前授業は、2025年まで足かけ10年、累計53校、4092名の受講者を得ました。関係各位に御礼申し上げます。

7-1 出前授業の開催状況

① 7月3日：村山市立富本小学校にて開催

5年生6名が受講。同校は地すべり防止区域に立地しており、「富本小は5本の集水井戸に守られている」ことを主とした防災学習と現地での井戸5本の見学と説明。

② 11月11日：天童市立南部小学校にて開催

6年生81名が受講。前半は委員会のメンバーによる防災を主とした授業と山形大学の本山功教授から「村山地方の活断層について」の講義。自作の模型を用いて、地震がもたらす長周期振動と短周期振動等の違いを児童たちにも分かりやすく説明。ドローンのフライトシミュレーターによる体験。

後半はグラウンドにてドローンを用いた授業。

なお、県内の関係総合支庁においては、全面的な協力とともにプレスリリースの投げ込みあり。

マスコミ関係は新聞社が2社。

③ 11月27日：南陽市立宮内小学校にて開催

宮内小においては2017年から9年連続での開催。6年生47名が受講。

前半は体育館にて防災関係の授業と山形大学の本山教授から「置賜地方の活断層について」の講義。ドローンのフライトシミュレーターによる体験。

後半はグラウンドにてドローンを用いた授業。

マスコミ関係は新聞社が2社、テレビが1社。

7-2 本年度の実績

- ① 7月 3日 村山市立富本小学校 6名
 - ② 11月11日 天童市立南部小学校 81名
 - ③ 11月27日 南陽市立宮内小学校 47名
- 計3校 134名

7-3 出前授業風景と児童からの手紙

【児童からの御礼の手紙を紹介】 ※原文で掲載

◎ 今回の授業によって、災害がおきたら自分の命を守ることが大切だと思いました。特に日本はプレートがたくさん重なっていて、地震が多い上に、最近雨も多いので、津波、地震、地すべり、土石流、がけ崩れ、こう水などの災害がおきた時のために、ハザードマップや避難所を確認して、避難する時の

荷物を準備したいと思いました。（天童南部小）

◎ 今回の授業を通して、災害はいつどこでおこるかがわからないので、ひじょう食やハザードマップの確認など、前もってそなえたいなと思いました。線状降水帯という言葉は聞いたことがあったけど、あまり意味を知らなかったので、また新しい知識がふえた一日でした。ドローンを実際にそうさしているのを見て、すごくせんさいな作業だなと思いました。これが「プロの技」ってやつなんでしょうね！すごい…！本当すごかったし、楽しかったです。（天童南部小）

◎ 先日の授業で、学べることがたくさんあって、プリント3枚分メモをしました。ハザードマップを、今夜家族で確認してみます！！（天童南部小）



写真 7-1 天童市立南部小学校

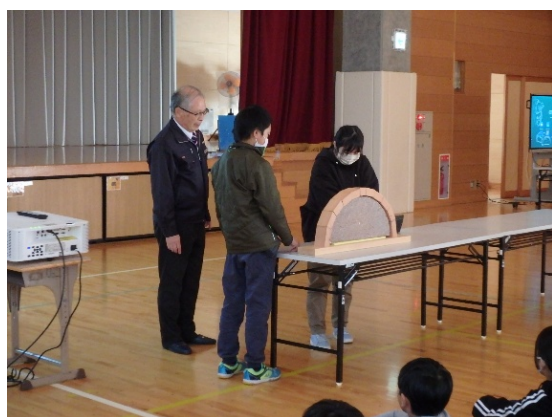


写真 7-2 南陽市立宮内小学校

7-4 おきたま未来の建設フェスタ！に参加

11月1日、山形県建設業協会米沢支部青年部が主催。山形県置賜総合支庁他の共催により置賜総合支庁を会場に開催。日本技術士会山形県支部として参加。ドローンのフライトシミュレーターと石橋の模型実験を多くの子供たちが楽しく体験。

（社会学習委員会 石井 記）

8. 広報委員会 令和7年度活動実績

8-1 語るBe・語り部（PEインタビュー）

山形県支部では、これまで技術士の取組んできた技術についての発信の場をつくること、そのノウハウおよび技術士の資質などを読んで学べる資料を残すことなどを目的として、PE インタビューという事業を実施しております。第4回として井上憲治様にインタビューを実施しました。

内容は、井上さんの少年時代から高校、就職、そして東北電力でのキャリアに焦点を当てており、特に新日向川発電所建設工事におけるトンネル担当としての経験や、羽越水害発生時の上郷ダムでの管理業務に関する詳細な思い出が語られています。また、技術士の資格取得や東北電力退職後のキャリア、さらには趣味である野球、そば屋巡り、随筆についても触れられており、高度経済成長期の建設業界や電力業界の時代背景が垣間見える内容となっています。

日時：2025年10月3日(金) 13時30分～

場所：株式会社田村測量設計事務所

対象者：井上憲治（建設部門）

STAFF：広報委員会 伊藤信生、加藤友之

山形県 後藤美保

オブザーバー：西尾 斉、小山田孝一



写真8-1 インタビューの様子



写真8-2 左から西尾氏、伊藤氏、井上氏、後藤氏、加藤氏、小山田氏



写真8-3 日向川発電所導水路トンネル貫通

昭和38年5月22日

記事の完成後、井上様からは身に余る感謝のお言葉をいただき、関係者一同、本事業の意義を再確認するとともに深く感謝しております。インタビューの詳細は支部ホームページに掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

8-2 インタビューあとがき

2024年度にインタビューをさせていただいた、農業部門の丸山修さまが昨年逝去されました。謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

技術士としての貴重な足跡を、記録として後世に残せましたことは、関係者一同にとりましても大きな誇りです。

（広報委員会 伊藤 記）

9. おわりに

山形県支部の2025年度は、各委員会が中心になってそれぞれの活動計画に基づき積極的な活動が行われました。

支部活動報告の各行事の報告書を作成いただきました各委員の皆様がこの場をもってお礼を申し上げます。

（広報委員会 伊藤 記）